

平成 28 年土石流調査情報（桜島地域） 第 1 1 報

（通算第 154 号）

- 桜島の噴火による降灰量は、前年同期間（1 月～5 月）と比較して約 0.11 倍と少ない結果となっています。
- 土石流発生回数は前年の 28 回（1 月～6 月）に対し、今年は 16 回と少ない結果となっています。

1 桜島の噴火による降灰の状況

平成 28 年 4 月 1 日から平成 28 年 5 月 30 日までの約 1 ヶ月の桜島 18 カ所の降灰量観測所における最大の降灰量は、第二黒神川で 0.97kg/m^2 でした。また、降灰量の 18 観測所の 1 月から 5 月の合計値は、前年比で約 0.11 倍となっています。

資料－1 桜島の降灰量図

資料－2 降灰状況

資料－3 平成 27 年（1 月～5 月）及び平成 28 年（1 月～5 月）の降灰量比較

2 土石流の発生状況

平成 28 年 6 月 1 日以降においては、6 月 13 日・16 日・19 日・27 日・28 日に野尻川・持木川・第二古里川・有村川・黒神川で土石流が発生しましたが砂防設備内を安全に流下しました。平成 28 年 1 月から 6 月末までの土石流発生回数は、昨年の 28 回に対し今年は 16 回となっています。

図－1 桜島の直轄河川位置図（全 11 河川）

資料－4 平成 27 年及び平成 28 年（1 月～6 月）の土石流発生回数比較

資料－5 土石流発生状況

資料－6 年間（暦年）・河川別土石流発生回数

3 土石流災害の危険性

昭和火口周辺では、火山噴出物の堆積が進行しているため、今後も土石流が発生しやすい状況となっています。

今後、鹿児島地方気象台及び鹿児島県より土砂災害警戒情報が発表されるような大雨が降るような状況の場合には、土石流やがけ崩れによる被害が発生する恐れがありますので、土砂災害警戒区域に指定されている地域では十分警戒が必要です。

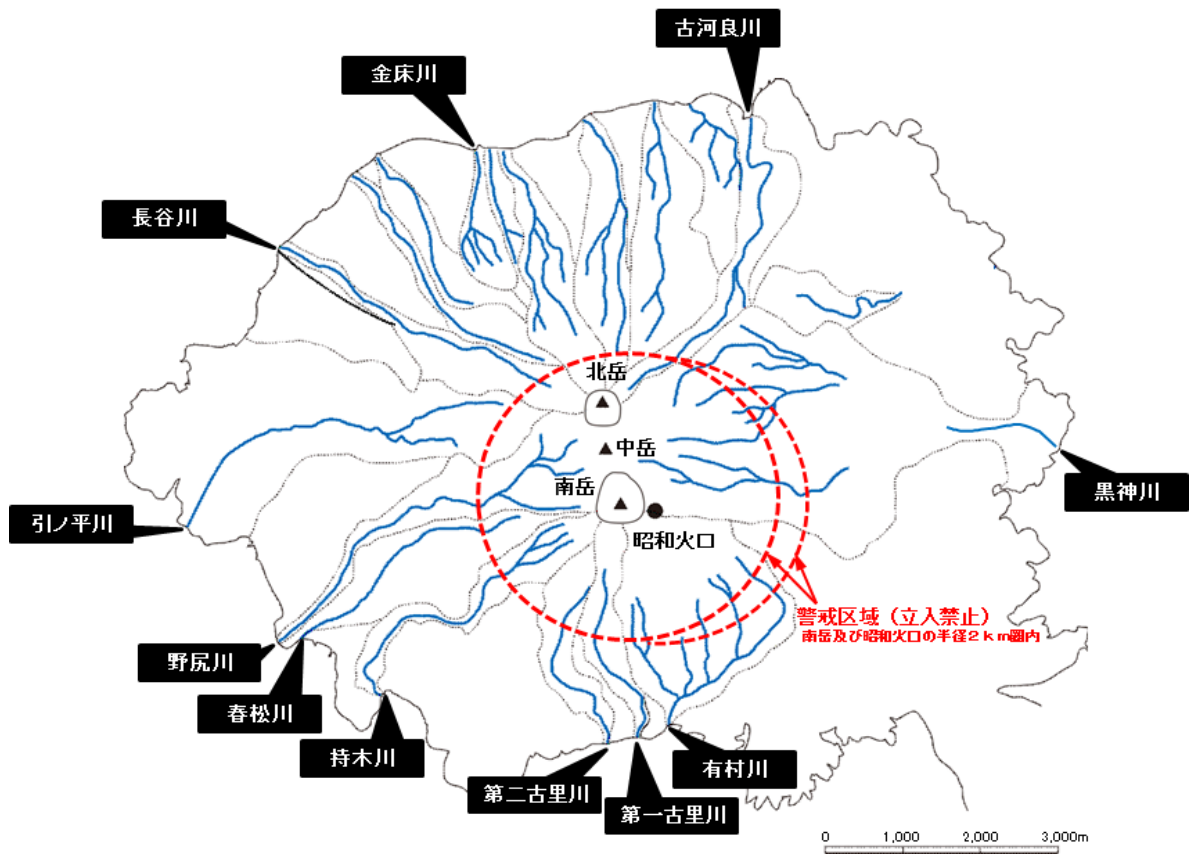
資料－7 年間（暦年）・土石流発生と噴火回数の関係

資料－8 土石流発生直前の降水量（平成 21 年 3 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日）

4 今後の対応

九州地方整備局大隅河川国道事務所では、今後も桜島の噴火に伴う土石流等の調査を継続的に行い、適宜、情報提供させていただきます。

※この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第31条第2項に基づく情報の随時提供です。



図－1 桜島の直轄河川位置図（全11河川）